

第12回「日本語大賞」

テーマ「心にひびいた言葉」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

『まほう』の言葉

アメリカ

デトロイトりんご会補習授業校

小学六年 三宅 杏奈

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「Hi」

これは、私がごく日常に、道ゆく人と交わすあいさつだ。

私がアメリカに来たのは、昨年の春。この夏で一年半をむかえた。渡米して間もない頃は、様々な文化の違いにおどろき、緊張の連続の毎日。そんな不安でいっぱいだった私を救ってくれたのは、アメリカ人のフレンドリーさだった。

アメリカ人がどうしてあんなにフレンドリーなのか、私は考えてみた。すると、すぐに思いあたることがあった。それは、「Hi」と笑顔で交わすあいさつの言葉だ。これは、朝から夜まで使える、スポーツで例えるなら「オールラウンドプレイヤー」といったところだろうか。それだけではない、この「Hi」という言葉、話すとき自然に口角が上がって、笑顔になるのだ。

「こんなにすばらしいHi」という言葉。日本語に訳すならば、「やあ。」「や。」「どうも。」「が一番自然なのだが、それでは何となくしっくりこない。なぜなら、「やあ。」「とか「どうも。」「は、「Hi」ほど日常的には使わないからだ。気軽に使えるこの「Hi」がアメリカ人の親しみやすさのヒミツなのだろうか、と私は考える。

また、コロナによるロックダウン下にも、改めてアメリカ人の友好的な様を実感した。きっかけは、健康のためにサブ(住宅地)の中をウォーキングしたことだった。人とすれちがうたびに、見知らぬ人も、六フィート以上のきよりを保ちながら、マスク越しに笑顔で「Hi」の一言。

たった二文字のあいさつだけなのに、何かが心がほっこり温かくなって、いい気持ちになる。家族以外の人たちと会えなかったこの時期に、この言葉が私に希望をもたらしてくれた。まさに、「まほう」の言葉だ。

日本語には、外来語が多く含まれているという。きっといつか、「Hi」のようなまほうの言葉が仲間入りして、使われる日が来るといいなと思っている。

一方で、日本特有のあいさつの中で、大切に思っているものもある。

「ただいま。」「おかえり。」「

いただきます。」「ごちそうさま。」「

これらは、私の好きな日本語の一つだが、英語では、ちよつどいい言葉が見当たらない。

アメリカの現地校に初登校した日、家に帰った時の「ただいま。」「おかえり。」「のあいさつで、どれだけほっとしたことか。そして、「いただきます。」「ごちそうさま。」「は、言うだけで日々の食事への感謝を改めて感じる」とができる。

これらの日本の美しい言葉は、きっと、私が「Hi」という言葉に感じたような「まほう」の力を持っているのではないか、と感じている。